



米子市埋蔵文化財センターたより

第4号

2012年3月

境矢石遺跡の現地調査が終わる！

—南部町 ^{さかいやし}境矢石遺跡—

平成22年4月21日から開始した境矢石遺跡の発掘調査も、今年3月末で終了する運びとなりました。

約18,000㎡を期間2年間で調査した結果、縄文時代から近世にかけて営まれた遺跡であることが分かりました。主な遺構は弥生時代前期から中期の木棺墓群と弥生時代後期から奈良時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴、段状遺構、土坑など総数約350基です。

昨年の7月から調査した境矢石遺跡6区では、弥生時代前期～中期の遺構として木棺墓を26基確認しました。木棺墓は平面形態が長方形で、その規模は、長さ0.7～2.3m、幅0.5～1.1mを測ります。木棺墓のなかには木棺の側板を固定するための石が据え付けられているものや、長さ0.7m、幅0.5m～0.6mと小さな木棺墓もあり大人から小児まで埋葬されていたようです。副葬品はほとんど発見されませんでした。SK37から石鏃10点が検出され注目されます。

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、竪穴住居跡24棟、段状遺構10基、掘立柱建物跡5棟、貯蔵穴10基を確認しました。竪穴住居跡と段状遺構の多くは、同じ場所に数回の建て替えを行っていました。

古墳時代後期の遺構は、土壇墓を2基、横穴墓を1基、版築状遺構1基を確認しました。横穴墓は、遺体を納める玄室の天井が崩落していましたが、玄室床面から須恵器坏12点、提瓶1点、カスガイ状鉄器3点、白玉1点、小玉56点が発見されました。

(高橋)



横穴墓入口の蓋石



須恵器坏が置かれた横穴墓内部

発掘調査情報

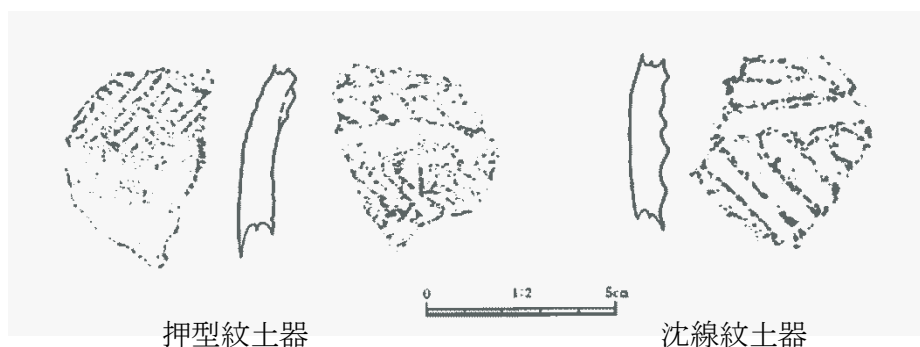
ばくろうづか - 伯楽塚遺跡の縄紋土器 -

伯耆町坂長・伯楽塚遺跡

昨年(2022年)の11月に現地調査を終えた伯楽塚遺跡の整理作業も、土器に付着した土を落とす洗浄作業が進み、ようやく全体像が見渡せるようになってきました。これまでに作業を進めた結果、縄紋時代早期(今から7千年前)の土器が含まれていました。

これらの縄紋土器が出土したのは、調査区の東側にある谷底で、長年の流土によって丘陵上の遺跡が崩れて堆積した層の中から出土しています。

出土した土器は、押型紋と呼ばれる楕円形の紋様を施す土器と、山形の紋様を施す土器で、縄紋時代早期の前半から中頃に位置付けられる資料です。また、棒状の工具で線を描いた土器で、近畿地方の縄紋時代早期後半から終末期の資料とされる穂谷式土器や、南九州の手向山式土器に類似するものも見つかりました。鳥取県内では、この時期の資料は大変少ないため、伯楽塚遺跡は早期後半期の土器を持つ貴重な資料であることが判明しました。(佐伯)



整理室たより

埋蔵文化財センターには様々な資料が持ち込まれました。遺跡の遺物としては山陰歴史館で保管されていた土器や瓦類、個人から寄贈のあった横穴墓の須恵器などです。また、調査資料は研究団体から寄贈のあった古墳の実測図や写真類で、図書は学会誌や考古学全集、単行本などです。

各資料は、かなり膨大な数があり図書類は整理出来ましたが、遺物や写真類は分類点検に手間取るため、なかなか進まないのが実情です。

早めに利用できるように、出来る限り整理を進めていきたいと考えています。



持ち込まれた古瓦・埴輪

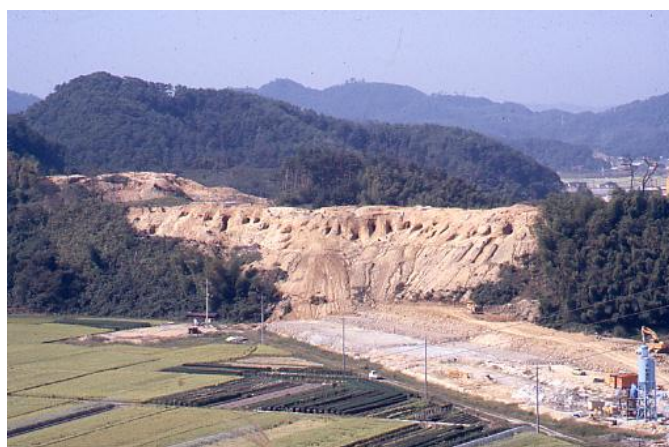
陰田遺跡群は、米子駅の南西 1 km の陰田地区に所在する多数の遺跡の総称です。

1980 年から開始された米子バイパス工事と 1989 年から開始された 180 号バイパス工事に伴う発掘調査によって数多くの遺跡が発見されました。

縄文時代の陰田第 7 遺跡、陰田第 9 遺跡、古墳時代の陰田古墳群と横穴墓群、飛鳥奈良時代の陰田第 6 遺跡、陰田隠が谷遺跡、宮の谷遺跡などです。その中でも大規模な

遺跡に陰田横穴墓群があります。1982 年に発掘調査され、鳥取県下最大規模の横穴墓群であることが判明しました。大小 50 基の横穴墓は未調査の南北側斜面にも続くことが確認されており、数は更に増えそうです。横穴墓の形態は、丸天井型、中高天井型、断面三角妻入型、断面三角平入型と小横穴型と様々あり、主な遺物として各種の須恵器、ヘラ書文字土器、馬具、鉄器、玉類などが多数発見されています。横穴墓は古墳時代後期の 6 世紀後葉から 8 世紀前葉まで営まれ、陰田に有力な集団が居たことを示しています。

陰田遺跡群は、この地区の数千年に及ぶ歴史を具体的に物語ってくれました。



コラムー縄文遺跡を掘る ③縄文時代中期 一目久美遺跡ー

米子市目久美町の足尾山の山裾一帯の水田の地下 1～4 m に埋れていた遺跡です。1933 年に加茂川放水路（現加茂川）が開削された時に発見され、その後の数回の発掘調査によって縄文時代前期（6 千年前）から弥生時代中期（2 千年前）に営まれた村跡や水田跡の遺跡であると判明しました。

縄文時代層からは縄文土器、石器、食滓の動物骨や魚骨が大量に出土しており、中期の遺構としてドングリを蓄えていた穴 43 基が見つかりました。当時の植物食糧として重要な食べ物であったことを物語っています。



センター・資料館日誌

- 1月 4日 仕事始め
- 1月 12日 (株)パレオラボ・佐々木氏が植物種子調査で来館、県財団・濱田氏が凸帯文土器調査で来館された。
- 1月 15日 埋文センター事業「拓本体験講座」を開催した。
- 1月 16日 県財団・中森氏が玉類調査で来館。
- 1月 17日 平成 24 年度の南部バイパス調査協議を実施した。
- 1月 22日 山陰歴史館から瓦資料他考古資料をセンターへ移転運搬した。
- 2月 4日 山陰中世土器検討会がセンターで開催された。
センター門柱横の水道管が破裂し緊急修理した。
- 2月 8日 体育館裏と横の倉庫を修繕した。
- 2月 20日 首都大学・山田昌久氏が木器調査で来館された。
県財団・馬路氏ほか写真撮影のため来館された。
- 2月 24日 永江団地・都田氏が記念誌作成のため青木遺跡資料調査で来館。
- 2月 25日 県博の陶棺調査検討会へ歴史館保管の陶棺片を持ち込み、県博所蔵の陶棺片と接合した（佐伯）
- 3月 1日 福市資料館の看板を新しく設置。
- 3月 22日 県埋蔵文化財センター・北氏が上淀廃寺の瓦の調査に来館された。
- 3月 24日 境矢石遺跡 6 区現地説明会が開催された。
- 3月 27日 米子市歴史館運営委員会が開催され福市資料館の実績を報告した。

行 事 案 内

「もっと知りたい米子城」

発掘調査でわかった米子城や武家屋敷の様子を遺構や出土品で解説する企画展や米子城に関する講座・現地巡りを行います。5月と6月の催しは下記の行事です。

「米子城現地ガイドツアー」

日時 5月13日（日）

午後1時30分～3時30分

「米子城下現地ガイド」法勝寺町～祇園町方面

日時 6月17日（日）

午後1時30分～3時30分

集合場所 山陰歴史館

定員30名、資料代100円

申込 電話・FAXで受付中

0859-26-0455まで

■開館時間

午前9時～午後5時

■休館日

催事開催日を除く毎週土、日曜日、
祝日、年末年始

編 集 後 記

東北大震災から早一年が過ぎ復興もなかなか進んでいませんが、季節は確実に巡ってきています。福市遺跡の桜のつぼみも咲くときを待っており、今年もきれいな花を咲かせそうです。

発行日 平成 24 年 3 月 28 日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 米子市教育文化事業団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp